



福山大学

人間文化学部心理学科

野寺 綾 (のであ あや)

所在地：福山市学園町 1 番地三蔵

<http://www.fukuyama-u.ac.jp/psychology/>

Profile—野寺 綾

福山大学人間文化学部心理学科准教授。2008年、名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻博士後期課程満了。日本福祉大学教育デザイン研修室主任研究員などを経て、2013年より現職。博士（心理学）。専門は社会心理学、教育心理学。著訳書は『本当は間違っている心理学の話：50の俗説の正体を暴く』（共訳、化学同人）など。

はじめに

私が本学に着任した当初、「福山大学って、どこにあるの?」とよく尋ねられました。今年で開学40周年を迎えた福山大学は、広島県福山市にある、5学部14学科からなる総合大学です。福山市は岡山県に隣接する街ですので思いのほか関西から近く、新大阪駅から福山駅までは新幹線で1時間ほどです。また、しまなみ海道を使えば四国へも車で1時間足らずで行けます（観光マップによると、本格的なサイクリストならば3時間強で走破できる距離なのだから）。瀬戸内の穏やかな海と豊かな緑の山を持つ福山市は、お隣の尾道市に負けず劣らず映画やテレビドラマの撮影地として有名です。記憶に新しいところでは、ドラマ『流星ワゴン』やハリウッド映画『ウルヴァリン：SAMURAI』の撮影地になりました（ウルヴァリンはミュージアムの身でありながら、本業の合間をぬって福山市の観光大使を務めています）。

心理学科について

平成16年に誕生した人間文化学部心理学科は、広島県東部において心理学を基礎から応用まで学べる唯一の学科です。そのため、中・四国地域の出身者が学生の大部分を占めています。学内には女子寮もあり、また比較的物価も安いことから、一人暮らしをする学生が大勢います。

心理学科の専門領域は、3つの系（地域臨床、医療・福祉、発達・教育）に分けることができます。学生は3年生になると、いずれかのゼミへ配属されます。「地域臨床系」には、平伸二先生（犯罪心理学）、青野篤子先生（社会心理学）、日下部典子先生（地域臨床心理学）、「医療・福祉系」には、橋本優花里先生（認知神経心理学）、山崎理央先生（臨床心理学）、川人潤子先生（臨床健康心理学）、「発達・教育系」には、赤澤淳子先生（発達心理学）、金平希先生（児童臨床心理学）、そして私、野寺（教育・社会心理学）のゼミが含まれます。

心理学科では全般に、グループワークや発表を求める学生参加型の授業が多く行われています。「私、人みしりなんです……」と言っていた学生も、いつの間にかこの環境に慣れ、積極的に発言するようになります。また、様々な分野の教員が在籍しているため、卒業研究（必修）のテーマも多様です。脳波を測定したり、幼稚園に向いて行動観察をしたりする

学生もいます。この他、昨年度は「多世代交流型女子会の実践的研究」「食品に付与された言語情報はおいしさに影響するのか」「漢字書字につまずく児童への学習支援」等、様々な発表がありました。この発表会は、全ゼミ合同であるうえに下級生も参加して開催されますので、毎年活気と熱気に包まれます。（写真1）

心理学科生の活動

心理学科の最大の特徴は、学生の縦横のつながりが密接だということです。一例として仲間（peer）による支えあい（support）を意味する「ピア・サポート活動」が挙げられます。新入生の多くは大学生活になじめるか不安に思いますし、授業の専門性が高まるにつれて学習に困難を感じることも増えてきます。心理学科では担任制を徹底しているため、そのような時には教員に相談することもできますが、それと並行して「学生間の自発的な」学習支援・心理支援を受けることもできます。例えば、心理学科生な



写真1 卒論発表会の様子



写真2 ピア・サポート活動（学習支援）の様子

ら誰でも、事前に予約をしておけば、「学生サポーター」として登録している先輩からレポート作成のアドバイスを受けることが可能です。先輩たちに気軽に相談にのってもらった経験は、自分が上級生になった時、より下の世代をサポートしようという気持ちを学生たちの間に芽生えさせるようです。また、学生サポーターは学内にとどまらず、大学近郊の高校や小中学校へ出向いてソーシャル・スキル・トレーニングの講習を行うなど、ピア・サポート活動の輪を地域社会に広げています。ピア・サポートは学科成立当初から盛んに行われてきましたが、心理学科では平成27年度からこの活動を人間文化学部全体に広げ、「学生サポーター養成講座」を開講しています。(写真2)

また、心理学科では地域で活躍できる人材の育成を目標にしているため、学生が地域社会に出向いてボランティア活動をする機会も多くあります。上記の学外のピア・サポート活動以外にも、学部長の平先生が運営する犯罪心理学研究室の学生たちは、PACE福山支部として、地域の小学生を対象にした防犯活動(安全マップの作成等)に長年取り組んできました。この地道な活動が評価され、昨年度、内閣府特命担当大臣表彰(社会貢献青年表彰)を受賞しました。このほかにも学生たちは、大学最寄り駅周辺の商店街の活性化、高次脳障害者の社会参加支援、発達障がい児の学習支援など様々な活動に取り組んでいます。

進路と資格

卒業生の進路は、一般企業(販売・金融等)が最も多いですが、公務員(家庭裁判所・警察・児童福祉施設等)、医療福祉関係(病

院・学校等)と多様です。OB/OGの就職実績がある企業・団体からの情報提供や就職課からの手厚い支援を受けられますので、就職率は例年良好です。また大学院に進学した後、科学捜査研究所や高等教育機関(大学)で勤務している卒業生もいます。例えば、川人先生や金平先生、助手の皿谷陽子先生は、本学の卒業生です。特に大学院進学を目指す学生にとって、先輩たちの活躍を身近に感じられることは大いに励みになっています。

心理学科では、認定心理士、社会調査士、高等学校教諭専修免許(公民)の資格を取得することができます。このほかにも、卒業までに心理学の基礎知識を確かに身につけたという「自信」を資格という形でアピールできるようにするため、3年生の時点で学生全員が「心理学検定」を受検します。昨年度からは、メンタルヘルスマネジメント検定の受検も奨励しています。これらの受検には大学からの補助金ができますので、安価で資格取得を目指せることが学生にとって魅力となっています。

大学院人間科学研究科について

人間科学研究科(心理臨床学専攻)は、平成19年に開設されました。本研究科では臨床発達心理士や学校心理士(補)、専門社会調査士、高等学校教諭専修免許(公民)の資格取得が可能です。特に臨床系の資格取得を目指す院生は、近隣の病院・学校での実習を行うほか、学内にある「こころの健康相談室」の業務の一部も担います。そのため本学の院生は、入学後の早い段階から心理臨床現場の実践家となるべく見聞を広め、トレーニングを積むこととなります。一部の院生は、外部資金を獲

得して研究を進めており(広島県こども夢基金、広島県共同募金会等)、その成果を地域社会に還元しています。

入試に関して特徴的なのは、平成21年度から、特に成績が優秀な内部進学生を対象に、早期卒業制度を導入していることです。この制度を利用すれば、学部3年の時点で大学院を受験し、院に進学することができます。平成25年度には2名がこの制度の適用をうけて進学しました。2人とも臨床発達心理士の資格を取得し、この春から病院の常勤心理士や福祉施設の常勤支援員として活躍しています。この他、社会人や留学生を対象とした入試、社会人が学びやすいようなカリキュラムづくり(長期履修制度)も行っており、「心理学を極めたい!」という皆さんのニーズに応えられる研究科づくりを心がけています。

おわりに

この原稿を書くにあたり、私のゼミ生たちに「心理学科の魅力」を尋ねてみました。教員との距離の近さや学生同士のつながりの強さを挙げる者が多くいました。私が着任したのは2年半ほど前ですが、フレンドリーな学生が多くて驚いた記憶は今も鮮明です。福山市が誇る生産量日本一の野菜「くわい」(そう、おせち料理に入っているアレ)は、漢字で「慈しみ深い姑(慈姑)」と書きますが、人とのつながりを大切にして相手を慈しむような人材を社会に送り出すべく、教員一同努力しています。福山大学に興味をもった皆さん、ぜひ一度福山大学に遊びにきてください。フレンドリーな学生たちと共に皆さんのお越しをお待ちしています。